

(参考 : HP 用)

農業後継者育成基金事業

平成26年度農業大学校助成事業 (実践力育成助成)

事業主体名 鹿児島県立農業大学校 野菜科

1 目的

加工業務用向け露地中ネギ(短葉ネギ)の多く利用されている小ネギ品種(鴨頭ネギ等)や鹿児島県で多く栽培されている根深ネギ品種(夏扇等)を利用し、「刻みねぎ」用中ネギ(短葉ネギ)栽培に適する品種の検討を行うと同時に、短葉性ネギの「刻みねぎ」の品質評価について、品種、土壌に分け試食アンケートを実施し、露地栽培での加工業務用中ネギ(短葉性ネギ)の栽培技術の把握を行うと同時に、次世代のネギで競争力のある生産農家の育成を図ることを目的とする。



2 実施状況

(1) 露地栽培での加工業務用中ネギ(短葉性ネギ)の適品種の検討の実施

小ネギ品種(鴨頭ネギ・小夏ネギ)と根深ネギ品種(冬扇3号・夏扇4号)を用い、定植日、畑、水田の試験区を設定して調査を行った。(結果)

- ⑤ 収量は冬扇3号が最も高く、抽苔率も低く、冬場の栽培でもっとも適した品種である。
- ⑥ 定植が10月になると冬扇3号と鴨頭ネギは同等の収量を確保できる。
- ⑦ マルチ・無培土栽培は労働時間が短縮でき、高収量が確保できる栽培であり、加工・業務用中ネギ栽培には適した栽培である。



(2) 校内販売時の「刻みねぎ」の品質評価(消費者アンケート調査)の実施

12月・1月に3回(味噌汁、中華スープ、うどんスープ)の消費者アンケート調査を、品種、栽培地の違う試験区ごとに行った。(結果)

- ⑧ アンケートによる品質調査では、冬扇3号が他の品種に比べ、評価が低かった。
- ⑨ 鴨頭ネギを用いて、畑と水田で品質を比較すると、水田の方が葉の色が濃く、甘いとの評価が示された



3 今後の課題、取り組み

- ⑩ 周年出荷を行うため、春夏作の検討を行う。
- ⑪ マルチ移植栽培のため、育苗から定植までの生産の安定に取り組む。

